

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	音楽Ⅱ	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 音楽コース						
教科書	音楽Ⅱ MOUSA 2	副教材	コールユーブンゲン コンコーネ50番 音楽通論				
科目の概要	音楽基礎とともに、応用も含めて、音楽理論の理解や、読譜力を高める。 また、音楽の幅広い活動を通じて、音楽を愛好する心情を育て、創造的な表現力を伸ばす。将来に役立つ音楽・ソルフェージュをより深く学び、より実践的な音楽表現及び身体表現も学習する。 定期考查を毎学期実施。また、小テストや毎時間の授業確認テスト、単元テストを適宜実施する。 実技テストにおいては発表形式での実技試験を授業内で行う。			評価の観点	① 知識・技術の習得 音楽表現するにあたり、必要な楽典の学びが習得できているか。 ② 思考力・判断力・表現力の育成 発表会形式の実技試験を通し、歌唱法が習得できているか。初見リズムテストを実施し楽譜を読み解く力がついているか。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日々の復習・予習がなされているか、確認テストや単語テスト、小テストを通じて判断する。		
					上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・定期考查 ・実技試験 ・平常点、提出物、小テスト、授業態度		
授業内容	1学期 ・コンコーネ・コールユーブンゲン ・楽典（長音階と短音階、五度圏） ・リズム学習 ・聴音（ハ長調と様々な拍子） 2学期 ・コンコーネ・コールユーブンゲン ・楽典（近親調と調の相互関係について） ・リズム学習 ・聴音（ハ長調、ト長調、イ短調について） 3学期 ・コンコーネ・コールユーブンゲン ・楽典（和声と和音記号） ・リズム学習（グループアンサンブル） ・聴音（ヘ長調、ホ短調、ニ短調について）			学習方法	楽典内容は1年生の内容が土台となります。音楽理論の基礎を理解した上で、2年生の授業に臨んで下さい。 授業の内容を通じて読譜力を更に高めましょう。 音楽の基礎知識は理解できるようにしておいてください。必要に応じて、補習を実施します。		
					備考		

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）専攻実技	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 音楽コース						
教科書	なし		副教材	各専攻、楽器に合わせた教則本など			
科目の概要	各専攻実技の技術向上をめざす。 経験、進度に合わせて教則本を使用し1～4名程度の少人数レッスンを大阪音楽大学施設、あるいは本校施設で展開する。			評価の観点	① 知識・技術の習得 毎回のレッスンの進度と評価シート ② 思考力・判断力・表現力の育成 実技の出来栄とレポート ③ 主体的に学習に取り組む態度 レッスンカードと平常点		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 実技試験、進度点、評価シート、レッスンカード、平常点など		
				学習方法	毎学期、レッスン担当の先生方監修のもと、成果発表の動画提出をする。3学期には対面での発表も予定している。 毎日最低1時間を目標に練習することで、確実に上達します。		
授業内容	年度当初に技術レベルを確認し、教則本選定を行い、個々にあったレベルで年間20回程度のレッスンを受ける。			備考			

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）実技演習	単位数	1	学年	2
学科 ・ コース	普通科 音楽コース						
教科書	なし		副教材	・個人のレベルに合わせた幅広い教則本（バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム1巻、2巻、ソナタアルバム1巻、2巻など）			
科目の概要	音楽を学ぶにあたり、必ず習得しなければならない読譜力、ピアノ実技の向上を基礎から学び、表現力を磨くことをめざす。 進度に合わせて教則本を使用し1対1での個人レッスンを授業内で展開する。 また、人前で弾く上でのマナーを学習する。 専攻実技でピアノを専攻している生徒は声楽を学習する。			評価の観点	①知識・技術の習得 楽譜に書かれている内容をきちんと理解し、弾けているかを評価する。また、人前で弾く上でのマナーが出来ているかも評価する。 ②思考力・判断力・表現力の育成 曲を理解し表現できているかを評価する。 ③主体的に学習に取り組む態度 取り組み態度・出席による評価、教材をどれだけこなせたかを評価する。		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・実技試験 ・進度点 ・必要に応じた小テスト（リズムテストなど）		
				学習方法	日常生活の中で必ず毎日練習時間を確保すること。 毎日30分～60分を目標に練習することが望ましい。		
授業内容	・1対1での個別指導と自主練習			備考			

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）ピアノ実習	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 幼児教育コース						
教科 書	なし		副 教 材	・SeikeiPiano（学園共通教則本） ・個人のレベルに合わせた幅広い教則本（バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム1巻、2巻、ソナタアルバム1巻、2巻など）			
科目 の 概 要	保育で実践するピアノ実技の向上をめざす。 必ず習得しなければいけない読譜力、ピアノ実技の向上を基礎から学び、表現力を磨くことをめざす。 進度に合わせた教則本を使用し1対1での個人レッスンを授業内で展開する。			評価 の 観 点	① 知識・技術の習得 楽譜に書かれている内容をきちんと理解し、弾けているかを評価する。また、人前で弾く上でのマナーが出来ているかも評価する。 ② 思考力・判断力・表現力の育成 曲を理解し表現できているかを評価する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 目標曲を設定し目標に達しているかを評価する。授業の振り返りレポートなどを評価する。		
				評価 方 法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・実技試験（ピアノ演奏、弾き歌いなど） ・学期の初めに目標を設定し達成したか。		
	・1対1での個別指導と自主練習			学習 方 法	日常生活の中で必ず毎日練習時間を確保すること。 毎日30分～60分を目標に練習することが望ましい。		
授業 内 容				備 考			

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）音楽演習		単位数	1	学年	2
学科 ・ コース	普通科 幼児教育コース							
教科書	音楽Ⅱ MOUSA 2		副教材	MUSIC NOTE				
科目の概要	音楽基礎とともに、応用も含めて、音楽理論の理解や、読譜力を高める。 また、音楽の幅広い活動を通じて、音楽を愛好する心情を育て、創造的な表現力を伸ばす。 将来に役立つ音楽・ソルフェージュをより深く学び、より実践的な音楽表現及び身体表現も学習する。			評価の観点	① 知識・技能の習得 楽典を理解する。 ② 思考力、判断力、表現力の育成 歌唱・リズム実技は発表形式で評価する。 毎授業の小テストから楽典定着に臨む。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲的に歌唱、演奏などを行っているか。 丁寧に板書が取れているか。			
					上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・実技試験 ・平常点、提出物、小テストなど			
					1年生の基礎を理解した上で取り組むことが必要。 ピアノの授業とコード弾き、音階が関連しているので、ピアノの練習をするときも楽典の内容を意識して学習するとよい。			
授業内容	・発声練習、課題曲歌唱 ・楽典小テスト（音程・コード・音階など） ・楽典（1年生から発展させた内容） ・リズム課題 ・保育技術発表会の取り組み（歌唱） ・手遊び（グループ活動）			学習方法				
				備考				